39 東北地方におけるヒトスジシマカの分布域拡大と関連する要因

○小林睦生・二瓶直子・栗原 毅（国立感染研・昆虫医科学）

Factors influencing establishment of *Aedes albopictus* in Tohoku District, Japan

Kobayashi, M., Nihei, N., Kurihara, T.

2001年のヒトスジシマカ（Aa）の分布調査で，横手（2/29コロニー，9.5%），新庄（11/12, 91.7%），気仙沼（4/18, 22.2%）で新たに分布が確認された．その後2年が経過して2003年にはどの程度定着したかを確認するため再調査を行い，また継続して湯沢，盛岡，花巻，北上，釜石等で調査を行った．新庄ではAaは13/14コロニー（93%）で，市内広範に広がっていたが，横手では5/50（10.0%）がAaであり，分布は市内の一部に限局していた．盛岡では過去数回の調査でAaは全く認められなかったが，今回初めて市内の1寺院で確認された（2/51, 3.9%）．なお，湯沢，花巻，北上，大船渡，釜石ではAaは確認されず，小水域に発生する幼虫のほとんどはヤマトヤブカであった．北限域のヒトスジシマカの定着がどのような要因と関連するか検討している．

40 パプア・ニューギニアにおけるマラリア媒介蚊の調査（3）East Sepik 州におけるhuman- bait collection

○村主節雄・藤本千草・原田正和（香川大・医・国際医動物）

Survey on the vector mosquitoes of malaria in Papua New Guinea (3) Human-bait collections in East Sepik Province

Suguri, S., Fujimoto, C., Harada, M.

Papua New Guinea のEast Sepik 州の10ヶ所（延べ13ヶ所）において平成14年2月，平成15年2月，8月にマラリアの媒介蚊の調査を行った．方法は人囮法を用い，2人1組で2時間毎のデーターを取った．延べ109人の採集結果3,403匹が採集された．蚊の種類は*Anopheles farauti*, *punctulatus*, *koliensis*, *bancrofti*の4種であり，その内訳は*An. farauti*が2,233匹，*An. koliensis*が985匹，*An. punctulatus*が182匹，*An. bancrofti*が3匹であった．島においては*farauti*が9割以上を示め，*koliensis*が約1割であった．海岸地方では*farauti*と*koliensis*がほぼ同数採集され，丘陵地帯と平原部では*koliensis*が優先種で次いで*punctulatus*であった．これに反し高速道路地帯では*punctulatus*が優先種で*koliensis*がこれに次いでいた．共同研究者：Francis Hombhanje and Andrew Masta (School of Medicine and Health Sciences, UPNG)・Ilomo Hwaihwanje (Wewak General Hospital)・塚原高広・大澤彦太（東京女子医大・国際環境熱帯医学講座）